

---

---

# 万引き防止機器（EAS 機器）ハンドブック改訂にあたって

---

---

日本EAS機器協議会は、2002年6月に内外の主要な万引防止機器などを取り扱う各社が集い設立されて、はや6年が過ぎました。この間、お客様各位や関係省庁及び関連諸団体各位等の暖かい励ましに支えられながら種々活動してまいりました。このハンドブックもお客様や関係省庁等からの要望により2005年6月に刊行いたしました。今年で3年が過ぎました。

そこで、最近の万引犯罪や防止機器の最新データを更新すると共に、活動内容も日々進行していますので、今年度改訂することと致しました。

わが国の万引犯罪は、認知件数で2004年に158,000件でピークとなり、2007年には142,000件と毎年減少しています。ところが、犯罪被害を見てみますと、一度に大量の商品を盗る万引、外国人による集団万引、相変わらず多い青少年の万引や高齢者の万引も着実に増えている等の状況は続いており、店舗の現場では認知件数の減少とは異なる印象を持っています。

このような万引犯罪について、北海道大学の新田教授が提唱されている「三方よし」（売り手よし、買い手よし、世間よし）の考え方は江戸時代から言われていたということですが、現在にも通ずる話であります。万引を小売業の収益管理という側面だけでなく、地域の青少年健全育成や安全・安心な街づくりという社会的側面からみると、万引犯罪をおこさせない取り組みが、売り場を提供する小売業や商材メーカーを含めたそれぞれの業界に求められてきています。

これらの取り組みが企業の社会的な責任（CSR）という観点からも、重要な社会貢献であると発言されています。

一方、防犯の社会的インフラとして益々重要性を増しているEAS機器と心臓ペースメーカー等の埋め込み型医用機器との共生については、医用機器装着者の皆様が安心してお買い物をしていただけるよう、EAS機器の所在を明示するEASステッカーやEAS・POPの貼付、啓蒙に努めております。

日本EAS機器協議会は今後も万引犯罪撲滅のソリューション団体として、上記のような専門家の皆様の助言をいただきながら「地域社会の安全安心は万引防止から」をモットーに活動していきたいと考えます。

最後に、本書改訂にあたり日本EAS機器協議会の活動にご理解をいただいている小売業・各種団体・経済産業省・総務省・厚生労働省・警察庁、大学その他関係機関の協力をいただきました。改めて謝意を申し上げます。

2008年6月  
日本EAS機器協議会  
会長 山村 秀彦